

分析結果報告書〔1～4〕（共通） 1 / 1

1.0 土壌試料（検液の作成）

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得（複数回答可）	1. ISO 9001～9003 2. ISO 14001 3. ISO/IEC 17025(ガイト25) 4. MLAP 5. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数（溶出試験）	() 年
分析主担当者の実績 （年間の溶出試験の試料数）	()

< 3回の併行のために下記の< 試料液の調製 >以降は1～3回で概略同様であり、1回目の条件を記入する >

< 試料液の調製 >

容器 種類	1. ポリエチレン瓶 2. ポリプロピレン瓶 3. ガラス瓶 4. その他 ()
容量	() mL
試料（土壌）量	() g
塩酸 1 mol/L 種類	1. 自家調製 2. 市販品（塩酸 1 mol/L溶液） 3. その他 ()
量	() mL

< 試料液調製後の放置時間 >

試料液の調製から溶出操作（振とう） までの放置時間	() 時間 注1）
注1）試料液の調製後直ちに振とうした場合には0（ゼロ）時間とする。 時間単位で記入する（例えば、30分では0.5時間とする）。	

< 溶出（振とう）操作 >

容器の置き方 / 振とう方向	1. 横置き / 横振り 2. 横置き / 縦振り 3. 縦置き / 横振り 4. 縦置き / 縦振り 5. その他 ()
気温	() 注2）
気圧	() 気圧 注2）
振とう機	() 回/分
振とう回数	() 回/分
振とう幅	() cm
振とう方法	2時間連続振とう

< 振とう後の放置時間 >

振とう終了からろ過（又は遠心分離） までの放置時間	() 時間 注3）
注2）振とう開始時の気温（室温）、気圧の概略値を記入する。 注3）振とう後直ちにろ過した場合には0（ゼロ）時間とする。 時間単位で記入する（例えば、30分では0.5時間とする）。	

< ろ過等 >

遠心分離 実施の有無	1. 実施する 2. 実施しない
回転数	() 回/分
回転時間	() 分
ろ過 実施の有無	1. 実施する 2. 実施しない
ろ紙 種類	孔径0.45 μmのメンブランフィルター（MF）
メーカー	1. 東洋濾紙（アドバンテック東洋） 2. ワットマン濾紙 3. その他 ()
型式	型式 () 記入例：例えば、東洋濾紙では「A045A047A」
方法	1. 吸引ろ過 2. 加圧ろ過 3. 自然ろ過 4. その他 ()
作成したろ液（1mol/L塩酸による溶出液）量	() mL

< 検液（1mol/L塩酸溶出液）の作成後 >

1mol/L塩酸溶出液作成から検定（各項目の分析）までの時間 注4）	() 時間
鉛	() 時間
銅	() 時間
ふっ素	() 時間
カルシウム	() 時間
溶出液の保存状況 保存方法	1. 冷暗所 2. 室内（室温） 3. その他 ()
保存温度 注5）	約 ()
検定の方法（各項目の分析方法）と 分析結果	分析項目ごとに、分析結果報告書〔1〕（鉛）～分析結果報告書〔4〕（カルシウム） に記入する。

注4）1mol/L塩酸溶出液作成後直ちに分析に必要な量をはかり取った場合には、0（ゼロ）時間とする。分析項目ごとに概略の時間を記入する。

注5）保存していない（1mol/L塩酸溶出液作成後直ちに分析に必要な量をはかり取った）場合には、記入する必要はない。保存温度は概略を記入する。